

論文内容の要旨

氏名	八鳥 雄介	専攻名	社会開発工学専攻	学籍番号	11T A330B
論文題目	日越地域における生活環境の評価とOWAによるその統合化に関する研究				
<p>本研究では、日本とベトナムの地方圏における生活環境を評価することを目的として、地域全体の改善すべき生活環境を明らかにし、地区単位での具体的な生活環境を統合し、総合的な生活環境を把握する方法を検討した。</p> <p>研究対象地域は、日本の地方圏では、地方都市として長野県安曇野市、中山間地域として長野県長野市鬼無里地域と長野県下水内郡栄村を、ベトナムの地方圏では、農村としてハイズオン省キンモン県ヒップホア社アンボー村、地方都市として同省同県のキンモン町を取り上げた。まず、これらの対象地域に対して、アンケート調査を行い、地域住民の生活環境に対する意識（心理データ）を把握した。次に、国土数値情報および電話帳データを用いて、距離データなど（物理データ）を取得した。これらのデータを使用して、対象地域全体の生活環境を評価するためにCS（Customer Satisfaction, 顧客満足度）分析を行い、総合的な生活環境を地区単位で評価し統合するために言語数量詞OWA（Ordered Weighted Averaging, 順序重み付き平均）による分析を行った。</p> <p>その結果、CS分析から、対象地域全体で改善すべき生活環境が把握できた。安曇野市、鬼無里地域、栄村に共通の改善項目として、とくに買い物のしやすさがあげられた。また、アンボー村とキンモン町に共通する改善項目として、保健性に関する生活環境があげられ、ベトナムへの国際支援・協力において、これらを念頭に置いた地域の特質に配慮することが重要であると考えられる。</p> <p>また、言語数量詞OWAによって、心理データを用いた場合、物理データを用いた場合、その両方を用いた場合、シナリオを考慮した場合の4通りについて、対象地域の総合的な生活環境を地区別に評価して可視化することができた。その結果、心理データと物理データを用いて評価を統合することが可能で、主観性と客観性を表す両データの組み合わせによる分析は、最も合理的であるといえる。シナリオを考慮した言語数量詞OWAでは、重視する基準に応じて、地域内の地区別に総合的な生活環境を評価することができ、その地区別の差異を明確に把握することができた。この方法は、総合評価値を可視化することによって、地域全体を見ながら、個々の地区についての評価の位置づけが明確になり、まちづくりにおける合意形成の場での活用が期待される。すなわち、意思決定者は、一地区に固執することなく、中立性を保持し、円滑に議論を進めることができる。さらに、言語数量詞OWAを用いることによって、リスク（たとえば、楽観的、悲観的、中間的 など）に対する対応の程度に応じて、様々な意思決定戦略下で取り得る政策の優先順位のあり方を示すことができると考えられる。</p> <p>今後、ベトナムにおける物理データの取得と、地域の規模に応じた物理データにおける影響範囲の検討が課題としてあげられる。</p>					